



New!

まちライブラリーの紹介

新たに仲間入りした各地のまちライブラリーです。
開館日時など詳細は、まちライブラリーHP「まちライブラリーに行こう!」で検索できます。
(No. は登録番号です)

NO. 859 (京都府 京都市左京区)

まちライブラリー@森がたり文庫

アート・自然・手仕事の学びを共有する私設図書館。まちと里山をつなぐことをコンセプトに巣箱ライブラリーを京都の山間部(花脊～京北)に増やし、ライブラリーでの展示やワークショップも企画していきます。

- Web : <https://yamanone.studio.site/>
- Instagram : <https://www.instagram.com/yama.none/>
- オーナー : 川勝雪貴(アंक)

NO. 860 (兵庫県 神戸市中央区)

ピアノとミシンと本と ありのma~ma♪ まちライブラリー

神戸の住宅街のライブラリー。子どもたちの第三の居場所として、多世代交流の場として、地域の大人と子どもをつなぐ場所でありたい。ありのままの私とありのままのあなたが大好きになれる場を提供します。地域のみんが心豊かになりますように。

- オーナー : Ayà

NO. 862 (岩手県 矢巾町)

まちライブラリー@やはば

「こえる」をキャッチフレーズに、地元の方との垣根を「こえる」ため、オフィスには気軽に立ち寄れるカフェスペースとライブラリーを設置。ビジネス系が多めですがどなたでも楽しめる本もたくさん用意します。

- Web : <https://www.srs.co.jp/>
- Facebook : <https://www.facebook.com/shinkoprotec>
- オーナー : 信幸プロテック株式会社

NO. 863 (徳島県 阿南市)

まちライブラリー@anan

好きな時に好きな本を読める空間をつくっていききたい。ほっとできるひとときを共にし、新しい世界を本から学ぶ、仲間から学ぶ。そんな出会いを互いに提供しあえるネットワークであり続けたいと思っています。阿南市を「読書のまち」にします!

- オーナー : start anew~.lab.

NO. 864 (奈良県 奈良市)

まちライブラリー@アスカ国際学院

日本語学校内のまちライブラリー。留学生が持ち寄った本や世界中の様々な本をみんなで共有することで、国籍や言語に関係なく人がつながり、交流し、相互の文化理解が深められる場所にしたいと考えています。

- Facebook : <https://www.facebook.com/asukamachilibrary/>
- オーナー : アスカ美装株式会社

NO. 865 (福島県 西会津町)

まちライブラリー@いとなみ

多世代向けワーキングプレイス「いとなみ」の1階にある私設図書館。2階はシェアオフィスとなっており、それぞれ好きな過ごし方ができる場所を目指しています。蔵書は絵本や漫画、小説、専門書などが揃っています。

- Web : <https://www.100itonami.com/>
- Facebook : <https://www.facebook.com/itonami.fukushima>
- オーナー : 佐々木雄介

NO. 866 (山形県 米沢市)

まちライブラリー@小野川温泉 宝寿の湯

ほたるの里小野川温泉を見渡せる高台にある温泉宿のまちライブラリーです。足湯カフェのあるコワーキングスペースで読書をお楽しみください。

- Web : <https://www.hojunoyu.com/>
- Facebook : <https://www.facebook.com/hojunoyu>
- オーナー : 株式会社 宝寿の湯

NO. 867 (北海道 札幌市)

まちライブラリー@プラナシスタ

本を通して交流&環境理解を深めませんか?量り売り&コミュニティストア内にまちライブラリーをオープンします。本で関わるイベントも企画していきます!

- Web : <https://store.planasista.com/>
- Facebook : <https://www.facebook.com/nobutoshi.araya>
- オーナー : プラナシスタ・新谷

NO. 868 (静岡県 富士宮市)

虹ブックス

富士山麓の朝霧高原にある築60年超の納屋をリノベしたサブカル強めの読書室です。つげ義春などガロ系の漫画やアート・文学・思想・サブカル系、アナーキーやオルタナティブな生き方の本などを揃えています。

- Web : http://kougeisha.net/?page_id=1141
- Facebook : <https://www.facebook.com/kougeisha>
- オーナー : 虹霓社

NO. 869 (兵庫県 高砂市)

宝殿まちライブラリー

自家焙煎珈琲とスパイスカレーのあるブックカフェ。絵本・小説・漫画など約800冊の本は、入れ替えしながら楽しんでいただけるようにしていきます。キッズスペースもあり、小さなお子様とご一緒に寛いでいただけます。

- Instagram : https://www.instagram.com/hon_no_kaori/
- 植松香織

NO. 871 (大阪府 大阪市城東区)

まちライブラリー@古本たまや

城東区の南しぎの商店街にある、「古本たまや」の店先に巣箱型まちライブラリーを設置しました。城東区初のまちライブラリーです。子供向けの本を中心に常時20冊ほどを並べています。

- Web : <http://hencoya.sakura.ne.jp/wp/>
- Facebook : <https://www.facebook.com/hencoya>
- オーナー : 村上和也

NO. 872 (山口県 宇部市)

まちライブラリー@キッズラップ 子ども第三の居場所山口宇部拠点

子ども、子育て家庭が気兼ねなく立ち寄りくつろぐことのできるカフェと、地域コミュニティを音楽でつなぐスタジオの間にまちライブラリーができました。子どもたちの声と音楽を聴きながら、本を楽しみむひとときを。

- Facebook : <https://kids-wrap.or.jp/>
- オーナー : 一般社団法人キッズラップ 金子淳子

NO. 873 (熊本県 熊本市)

はじめギャラリーまちライブラリー

「建築のデザイン」+「人のつながりのデザイン」がコンセプトの設計・施工オフィスです。建築デザインのほか、工芸、美術、まちづくり等の本も。まちライブラリーを通して「人のつながり」を増やしていきたいと思えます。【開館準備中】

- Web : <https://hajimegallery.jp/>

NO. 875 (福島県 福島市)

まちライブラリー@ふくふる

かつて福島の経済・産業の中心地だった交差点「よつかど」に面する福島市まちなか交流施設「ふくふる」。その中のライブラリーは通称「よつかど本棚」。本をきっかけに人々が行き交い、親しみ合う場を目指します。

- Web : <https://fukufuru-machinaka.jp/>
- Facebook : <https://m.facebook.com/fukushimamachinaka/>
- オーナー : 福島市

イベントや各ライブラリーの情報は

まちライブラリーHPから

<https://machi-library.org/>

「分かち合う」まちライブラリーの原動力

新 年早々、1月6日に北海道千歳市の「まちライブラリー@ちとせ」が再オープンしました。テープカットの式典では、千歳市長や千歳市議会議員、地元高校生と大学生、そして私も加えていただき一緒にテープカットをしてきました。

千歳のまちライブラリーは、2016年12月に千歳タウンプラザに開設され、日本一大きなまちライブラリーとして多くの市民の方に愛され、利用されていましたが、2021年3月末に閉鎖されました。2021年vol.17(7月・8月号)の「まちライブラリー通信」でご紹介したように、そのような中で2000名を超える市民が、存続の署名活動を実施し、地元高校、大学生を対象にした市のアンケートでも大多数が存続を望んでいることがわかり、市役所、市議会が動き新たな出発ができたのです。このような劇的な展開が短いあいだに成立したのは、関係者の多大なるご努力と、かつての「まちライブラリー@千歳タウンプラザ」をサポートしてくださっていたボランティアとスタッフの皆さんが、毎月、毎月、「サーポーター会議」と称する会を昼と夜に開き、意見を出し合って運営に反映してきたからだと思います。これらが結実し、今回の再開にいたったのでしょうか。誠にありがとうございました。

開館日の1月6日から8日まで3日連続で復活イベントも実施しました。初日は、夜の時間のライブラリーを楽しんでもらおうとJAZZの生演奏を聴きながら、様々なテーマで語り合う会を実施しました。2日目は、高校生、大学生を主体とした学生フェスを実施しました。3日目は、親子で楽しめる集まりをいくつか実施しました。どの世代でも利用できる場所であることを改めて感じていただけたと思います。

「まちライブラリー@ちとせ」は、市民の方の力が結集し、市役所が動いて資金と場所を提供し、民間団体が運営するというきわめて稀なプロジェクトとなりました。公設民営という言葉は全国各地に広がっていますが、実際は、役所がお膳立てした施設を指定管理という形で民間企業などに運営を委託することを意味し、市民が主体になり、その運営に絡んでいくようになっていくところは少ないのです。「まちライブラリー@ちとせ」は、数少ない事例であり、その中でも特別素敵な場になっていくように思います。

まちライブラリーのような居場所は、学校や病院といった生活にとって不可欠なものではありません。しかし、その存在は一人ひとりの市民にとっては、心の糧になったり、生活の潤いになったりしています。ちょうど食事とお酒のよう

な関係かもしれません。食事は生きるために必要不可欠な栄養源になります。しかし、お酒はけっしてそのような必要不可欠なものであるとは言えません。学校や病院と違って、まちライブラリーはお酒のような存在かもしれません。ただ、お酒があるとお互いの気持ちを伝えたり、つながったりするときにとっても役立ちます。

『贈与論 資本主義を突き抜けるための哲学』(岩野卓司著、青土社2019)という本の中でこの関係性について興味深い話がありました。「手酌はよくない」という一節です。著者が、若いころ居酒屋で出会った人から言われたがその理由がわからなかった。しかし、フランスの人類学者クロード・レヴィ=ストロースの『親族の基本構造』からその理由が読みとけたというのです。著書の中でレヴィ=ストロースは、フランスの小さなレストランでは、食事と一緒に瓶に入ったワインを出すところがある。その瓶のワインは、お隣に座った人に酌をすることが習わしになっており、隣人とのコミュニケーションをとるための手段になっているというのです。

ワインは、生きるための必需品ではなく、贅沢品であるから、分かち合うことでお互い関係性を深めるために使われるのだという説です。日本でも酒を酌み交わすことは、契りや絆をつ

くるということと同義ととらえられてきました。大切な贅沢品を分けてこそ、人のつながりが生まれてくるのかもしれない。

まちライブラリーは、多くの人による寄贈本で成り立っています。本がこの場合は、ワインとなり、人と人をつなげる手段となっているのかもしれない。「贈与」しあうことで贅沢なものも共有しあい、私たちは大切な場所を得ているのかもしれない。冒頭紹介した千歳の事例は、そのような過程が市民の方々の血肉になったものなのでしょう。「分かち合う力」が、まちライブラリーを充実したものにしてくれた事例です。皆さんのまちライブラリーでも「分かち合う」力を大切されて、充実した活動を続けてください。

今年もどうぞよろしくお祈りします。

2022年1月

まちライブラリー提唱者 磯井純亮
連絡先 mail : MSJ00657@nifty.com